

## 2025授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目 ・ 一般科目

1/2

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	操縦科2年制・4年制課程	担当	細川 隆司 (常勤)	開講時期	2年次 通年
科目名	航空気象 II	授業 方法	講義・演習・実習	教育時間	60
教科書	HAA Private Pilot Manual				
参考書	AIM-J				

## 教 育 の 内 容

授業概要	米国での訓練に即した気象の理解			
実務経験	HAA Instructorによる。			
授業の進め方	HAAのTraining manualによる。			
到達目標	1. 自家用操縦士ライセンス取得(単発・多発) ※二年制課程で技能証明既得者及び四年生課程で技能証明既得者は、事業用訓練課程に移行する。			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	10%	10%	100%

## 授 業 計 画

(1単位時間=50分)

No.	教 育 項 目	時 間	備 考
1	地球の大気(the earth's atmosphere)	3	
2	気温(YEMPERATURE)	3	
3	大気圧と高度測定 (Atmospheric pressure and Altimetry)	3	
4	風(Wind)	3	
5	大気中の水分(moisture)、雲の生成、降水(precipitation)現象	3	
6	大気の安定・不安定(stable air, unstable air)	4	
7	雲(clouds)	3	
8	気団(air mass)と前線(front)と高・低気圧(high・low)	4	
9	乱気流(turbulence)	4	
10	着氷(Icing)	3	
11	雷雨(Thunderstorm)	4	
12	*IFR気象	4	
13	*高高度気象	4	
14	航空気象サービス	4	
15	天気図	4	
16	*数値予報天気図	4	
17	四季の天気図	3	

学科	操縦科2年制・4年制課程	学年	2年
科目	航空気象Ⅱ	授業方法	講義

2/2

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
気象の知識等	HAAのTraining manualによる。 (帰国後の日本での教育内容を含む)	3月から12月	60	



学科	操縦科 4年制コース	学年	2年
科目	英会話 II	授業方法	実習

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
英会話のトピックス	a 物の数(可算名詞)・物の数(不可算名詞)	4月～3月	120	
	b 好きな物・好きでない物/欲しい物・欲しくない物			
	c 行動の理由			
	d a-cの復習			
	e 行動の頻度(1)/日常生活の行動			
	f 現在形と現在進行形/行動の頻度(2)			
	g 感情表現/現在形の疑問詞(誰が・どこで)			
	h 現在形の疑問詞(いつ・いくら)			
	i e-hの復習			
	j 人の能力・許可の取り方			
	k しなければならない事・する必要がない事			
	l j-kの復習			
	m 序数と単位/知覚、感覚を表す動詞			
	n be動詞の過去形			
	o be動詞過去形のWH疑問文			
	p 規則動詞の過去形/不規則動詞の過去形			
	q 一般的な過去形のWH疑問文			
	r m-qの復習			
	s 形容詞を使って物を描写			
	t するつもりだったが、しなかったこと			
	u 未来の活動や出来事			
	v s-uの復習			
	w 誰かに頼み事をする			
	x 申し出・提案			
	y 義務と禁止事項			
	z w-yの復習			
	aa shouldを使って人にアドバイスをする			
	ab 人や物の状態			
ac 会話の中で、物事を明確にする				
ad aa-acの復習				

## 2024 授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目 ・ 一般科目

1/2ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	操縦科 2年制コース	担当	加藤 靖啓 (常勤)	開講時期	2年次 通年
科目名	航空法規Ⅱ	授業 方法	講義 演習・実習	教育時間	30
教科書	航空法				
参考書	AIM-J				

教 育 の 内 容				
授業概要	操縦士に必要な航空機登録、航空機の安全性、航空従事者及び、航空機の運航についての関係法規を理解させる。			
実務経験	事業用操縦士の実務経験を活かして航空法規の授業を行っている。			
授業の進め方	授業では板書、実機や実習機、eラーニングを有効的に活用する。			
到達目標	1.実運航に必要な法律を理解させる。			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	0%	20%	100%
授 業 計 画				
(1単位時間=50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	総則	5		
2	登録	5		
3	航空機の安全性	5		
4	航空従事者	5		
5	航空機の運航	10		

学科	操縦科 2年制コース	学年	2年
科目	航空法規Ⅱ	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
総則	a 国際民間航空条約 b 国際民間航空機関 c 航空法の目的 d 法、施行令、施行規則	4月～5月	5	
登録	a 登録の要件 b 航空機登録証明書 c 登録の種類 d 打刻、識別版	6月	5	
航空機の安全性	a 耐空証明 b 型式証明 c 修理改造検査 d 予備品証明	7月	5	
航空従事者	a 技能証明の限定 b 技能証明の要件 c 航空身体検査 d 航空英語能力証明	8月～10月	5	
航空機の運航	a 航空機に備え付ける書類 b 航行に必要な装備品 c 航空従事者に関する事項 d 見張りの義務 e 機長の義務 f 運航全般	11月～2月	10	

# 2025 授業計画書 (シラバス)

科目区分

( 専門科目 ) ・ 一般科目

1/4ページ

<b>(専) 日本航空大学校</b>					
<b>学科 コース名</b>	操縦科 2年制コース	<b>担当</b>	各訓練所	<b>開講時期</b>	2年次 通年
<b>科目名</b>	航法Ⅱ	<b>授業 方法</b>	(講義) 演習・実習	<b>教育時間</b>	90
<b>教科書</b>	AIM-Japan、AIP-Japan、プロシージャー、自家用・事業用操縦士の航法、計器飛行演習				
<b>参考書</b>	航法計算盤、プロッター、区分航空図、飛行機操縦教本、 TAKE OFF(安全飛行への招待)、ENROUTE CHART、事業用・計器飛行口述試験問題集				

<b>教 育 の 内 容</b>				
<b>授業概要</b>	事業用操縦士及び計器飛行証明の学科試験合格及び地上で習得したことを実飛行に対応できる様にする。			
<b>実務経験</b>	航空機事業の実務を活かして、安全・確実・迅速な飛行方法・要領を理解させる。			
<b>授業の進め方</b>	機長としての実運航要領を実施させる。			
<b>到達目標</b>	1. 学科試験及び実地試験の合格を目指し事業用操縦士のライセンスを取得する。 2. 学科試験及び実地試験の合格を目指し計器飛行証明のライセンスを取得する。			
<b>学業成績の 評価方法</b>	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	0%	20%	100%

<b>授 業 計 画</b>				(1単位時間=50分)
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	空中航法及び諸元解説	1		
2	航空図及びチャートプロットイング	5		
3	風力三角形	9		
4	航法計算盤	9		
5	磁気羅針儀、高度計及び速度計	3		
6	無線航法	3		
7	飛行計画	9		
8	地文航法	2		
9	行動半径と等時点	2		
10	事業用操縦士 学科・実地試験対策	12		
11	IFRによる出発	5		
12	エンルート	9		
13	IFRによる到着	11		
14	計器飛行証明 学科・実地試験対策	10		

学科	操縦科 2年制コース	学年	2年
科目	航法Ⅱ	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
空中航法及び諸元解説	a 空中航法 b 航法の分類 c 地球の形と大きさ d 地球に関する用語 e 方位と距離 f 時		1	
航空図及びチャートプロットイング	a 地図の特徴 b 航空図の要件 c メルカトル航空図 d ランベルト航空図 e プロッター f ランベルト図のプロットイング g メルカトル図とランベルト図	4月	5	
風力三角形	a 飛行中の風の影響 b 飛行中の風力三角形 c 計画の風力三角形 d 飛行中の風力三角形の作図法 e 計画の風力三角形の作図法 f 作図板の概要 g 飛行中の風力三角形の作図板解法 h 計画の風力三角形の作図板解法	4月～5月	9	
航法計算盤	a 乗除算計算 b 航法諸元の算出 c 単位の換算 d 三角関数応用	5月～6月	9	
磁気羅針儀、高度計及び速度計	a 地磁気 b 磁気羅針儀の構造 c 偏差と自差 d 時差の原因 e 動的誤差 f 定針儀 g ジャイロシンコンパス	6月	3	

学科	操縦科 2年制コース	学年	2年
科目	航法Ⅱ	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
磁気羅針儀、高度計及び速度計	h 高度の種類	6月	3	
	i 標準大気			
	j 気圧高度計			
	k 高度計の規正			
	l 高度計の誤差			
	m 真高度の求め方			
	n 気圧高度の求め方			
	o 密度高度の求め方			
	p 対気速度計			
	q 真対気速度の求め方			
r 速度計の速度				
無線航法	a NDB (ADF)	6月～7月	9	
	b VOR			
	c DME			
	d TACANとVORTAC			
	e 無線航法と位置の線			
	f タイムディスタンスチェック			
飛行計画	a 飛行計画の準備	6月～7月	9	
	b 飛行計画の作成(飛行ルートの策定))			
地文航法	a 地形地物と航空図	8月	2	
	b 航空図判読			
	c 地文航法の準備			
	d 地文航法における機位決定法			
	e 地文航法の実施要領			
	f 偏位角に関する公式			
	g 地文航法実施上の留意事項			
	h 地文航法と最新の航法			
	I 管制圏等の回避			
	j 実施上の留意事項			
径行 時と 等半	a 行動半径	8月	2	
	b 等時点			

学科	操縦科 2年制コース	学年	2年
科目	航法Ⅱ	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
試験科目・実地 事業用操縦士	a 機長の出発前の確認事項 b 有視界方式による航法ログの作成(飛行ルート of 策定) c 事業用操縦士としての総合的な判断	9月～10月	12	
IFRによる 出発	a. 計器飛行方式 b. 管制承認、ATCクリアランス、ATCプロシージャ c. レーダー誘導による上昇	10月	5	
エン ル ー ト	a. エンルート、セパレーション(IFR)、通信要領 b. 航空路等の飛行方法 c. 位置通報 d. 降下方式(IFR) e. ホールディング f. 交信不能時の対応 g. 洋上における管制方式	11月	9	
IFRによると 到着	a. 進入フィックスへの飛行、レーダー誘導 b. 計器進入 c. 進入の為の運用限界と気象 d. アプローチクリアランス e. IFRでの目視による進入(目視進入/視認進入) f. 最終進入(ゴーアラウンド/ミストアプローチ)	11月～12月	11	
試験科目・実地 計器飛行証	a. 航空従事者学科・実地試験	1月～2月	10	

# 2024 授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目

・ 一般科目

1/2ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	操縦科4年制コース	担当	加藤 靖啓 (常勤)	開講時期	2年次 通年
科目名	航空法規Ⅱ	授業 方法	(講義) 演習・実習	教育時間	30
教科書	航空法				
参考書	AIM-J				

教 育 の 内 容				
授業概要	操縦士に必要な航空機登録、航空機の安全性、航空従事者及び、航空機の運航についての関係法規を理解させる。			
実務経験	事業用操縦士の実務経験を活かして航空法の授業を行っている。			
授業の進め方	授業では板書、実機や実習機、eラーニングを有効的に活用する。			
到達目標	1.実運航に必要な法律を理解させる			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	-	20%	100%
授 業 計 画				
(1単位時間=50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	総則	5		
2	登録	5		
3	航空機の安全性	5		
4	航空従事者	5		
5	航空機の運航	10		

学科	操縦科4年制コース	学年	2年
科目	航空法規Ⅱ	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
総則	a 国際民間航空条約 b 国際民間航空機関 c 航空法の目的 d 法、施行令、施行規則	4月～5月	5	
登録	a 登録の要件 b 航空機登録証明書 c 登録の種類 d 打刻、識別版	6月	5	
航空機の安全性	a 耐空証明 b 型式証明 c 修理改造検査 d 予備品証明	7月	5	
航空従事者	a 技能証明の限定 b 技能証明の要件 c 航空身体検査 d 航空英語能力証明	8月～10月	5	
航空機の運航	a 航空機に備え付ける書類 b 航行に必要な装備品 c 航空従事者に関する事項 d 見張りの義務 e 機長の義務 f 運航全般	11月～3月	10	

# 2024 授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目

・ 一般科目

1/2ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	操縦科 2年制コース	担当	加藤靖啓 (常勤)	開講時期	2年次 通年
科目名	航空管制Ⅱ	授業 方法	講義・演習・実習	教育時間	30
教科書	AIM-JAPAN				
参考書	管制方式基準				

<b>教 育 の 内 容</b>				
授業概要	事業用操縦士及び計器飛行証明に必要な通信の基礎、無線工学、航空援助施設、航空交通業務、管制方式基準及び、航空機の実運航についてのATC、航空安全対策等を正しく理解させ、実地試験に合格させる。			
実務経験	事業用操縦士の実務経験を活かして航空管制の授業を行っている。			
授業の進め方	授業では板書、実機や実習機、eラーニングを有効的に活用する。			
到達目標	1.実運航に際して、管制機関との連絡方法を確実に理解させる。			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	0%	20%	100%
<b>授 業 計 画</b> <span style="float: right;">(1単位時間=50分)</span>				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	航空援助施設一般	5		
2	航空交通管制一般	5		
3	飛行場におけるATCプロシージャ	5		
4	計器飛行方式による運航	5		
5	緊急操作	5		
6	安全対策	5		

学科	操縦科 2年制コース	学年	2年
科目	航空管制Ⅱ	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
航空援助施設一般	a 航空保安施設 b 通信組織とレーダー網 c 着陸用援助施設 d 航空障害灯・昼間障害標識 e 飛行場標識とマーキング	4月～5月	5	
航空交通管制一般	a 航空交通業務 b 空域 c 管制機関 d 管制方式通則 e 気象情報 f 通信要領 g 飛行方式	6月	5	
ATC 飛行場における プロシージャ	a 飛行場管制方式一般 b タクシー及び出発、到着機 c 可視信号 d 飛行場灯火の運用	7月	5	
計器飛行方式 による運航	a 計器飛行方式による出発 b 計器飛行方式によるエンルート c 計器飛行方式による到着	8月～10月	5	
緊急操作	a 搜索救難 b 遭難及び緊急時の手順 c 不時着水、ハイジャック d 通信機等機材故障の場合	11月～3月	5	
安全対策	a 安全対策 b ヒューマンファクター c 運航環境 d 安全支援装置	11月～3月	5	



学科	操縦科 4年制コース	学年	2年
科目	英語Ⅱ	授業方法	実習

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
リスニング・スピーキング	a ディクテーション 全体を聞く(内容を想像する) 1文ずつ再生して聞こえたものを書く 答え合わせと音の確認 全文の意味を考えながら声を出して読む	4月～3月	90	
英単語・熟語	a 毎回50単語及び20熟語の学習 b 前週分の単語テスト	4月～3月	15	
英文法	a 基本文型の理解 b 品詞 c 前置詞・接続詞・関係詞の基本 d 不定詞・動名詞・分詞の基本 e 時制と仮定法 f 名詞と代名詞	4月～3月	15	

## 2025 授業計画書 (シラバス)

科目区分

( 専門科目 ) ・ 一般科目

1/2ページ

<b>(専) 日本航空大学校</b>					
学科 コース名	操縦科	担当	久保田 (常勤)	開講時期	2年次 通年
科目名	航空工学Ⅱ	授業 方法	(講義) 演習・実習	教育時間	60
教科書	航空工学入門 航空力学				
参考書	AIM-JAPAN Take-Off安全飛行への招待 事業用操縦士口述試験問題集 飛行機操縦教本				

<b>教 育 の 内 容</b>				
授業概要	航空従事者(事業用操縦士)として必要とされる知識を習得させ、実運航に活用できるように教育する			
実務経験	航空従事者実地試験教育の経験を活かし授業を行っている			
授業の進め方	教科書中心に参考資料を提示しながら理解しやすいように進めている			
到達目標	事業用操縦士として運航に必要な実用的な知識習得を目指す			
学業成績の 評価方法	前期得点	実技点	評点	評価点
	80%	0%	20%	100%
<b>授 業 計 画</b>				
(1単位時間=50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	航空力学 (航空工学入門～P58まで)	16		
2	機体 (航空工学入門～P110まで)	16		
3	航空エンジン (航空工学入門～P150まで)	6		
4	装備品 (航空工学入門～P218まで)	6		
5	復習・研究 (実運航に必要な知識の確認)	16		

学科	操縦科	学年	2年
科目	航空工学Ⅱ	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
航空力学	a. 流体力学の基礎	4月～6月	16	
	b. 翼型理論			
	c. 飛行機の翼			
	d. 全機の空力特性			
	e. 性能			
	f. 安定性			
	g. 操縦性			
	h. 重量および重心位置			
	i. 航空機の振動現象			
機体	a. 航空機材料	6月～10月	16	
	b. 航空機構造の種類			
	c. 主翼構造			
	d. 胴体構造			
	e. 尾翼構造			
	f. 機体にかかる荷重			
	g. 油圧・空気圧系統			
	h. 着陸系統			
	i. 操縦系統			
	j. 空気調和・与圧系統			
	k. 防除氷系統			
	l. 補助動力装置 (APU)			
航空エンジン	a. エンジンの歴史	10月	6	
	b. サイクル			
	c. ピストン・エンジン			
	d. プロペラ			
	e. ガスタービン・エンジン			
装備品	a. 電気装備	11月	6	
	b. 電子装備			
	c. 航空計器			
	d. 自動飛行制御装置			
	e. 非常用装備			
復習・研究	a. 実運航に必要な知識 (PA28-161型機)	11月～3月	16	
	b. 装備品 (エンジン含む) の故障・対策・緊急操作			
	c. 航空機整備			
	d. 耐空性			
	e. 実地試験 (口述) 知識			

# 2024 授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目

・ 一般科目

1/2ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	操縦科4年制コース	担当	加藤 靖啓 (常勤)	開講時期	2年次 通年
科目名	航空管制Ⅱ	授業 方法	講義・演習・実習	教育時間	30
教科書	AIM-JAPAN				
参考書	管制方式基準				

<b>教 育 の 内 容</b>				
授業概要	事業用操縦士に必要な通信の基礎、無線工学、航空援助施設、航空交通業務、管制方式基準及び、航空機の実運航についてのATC概要並びに航空安全に対して理解させ実施できるようにする。			
実務経験	事業用操縦士の実務経験を活かして航空管制の授業を行っている。			
授業の進め方	授業では板書、実機や実習機、eラーニングを有効的に活用する。			
到達目標	1.実運航に際して、管制機関との連絡方法を確実に理解させる。			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	-	20%	100%
<b>授 業 計 画</b> <span style="float: right;">(1単位時間=50分)</span>				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	航空援助施設一般	5		
2	航空交通管制一般	10		
3	飛行場におけるATCプロシージャ	5		
4	緊急操作	5		
5	安全対策	5		

学科	操縦科4年制コース	学年	2年
科目	航空管制Ⅱ	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
航空援助施設一般	a 航空保安施設 b 通信組織とレーダー網 c 着陸用援助施設 d 航空障害灯・昼間障害標識 e 飛行場標識とマーキング	4月～5月	5	
航空交通管制一般	a 航空交通業務 b 空域 c 管制機関 d 管制方式通則 e 気象情報 f 通信要領 g 飛行方式	6月	10	
A T C 飛行場における プロシージャ	a 飛行場管制方式一般 b タクシー及び出発、到着機 c 可視信号 d 飛行場灯火の運用	7月	5	
緊急操作	a 捜索救難 b 遭難及び緊急時の手順 c 不時着水、ハイジャック d 通信機等機材故障の場合	11月～3月	5	
安全対策	a 安全対策 b ヒューマンファクター c 運航環境 d 安全支援装置	11月～3月	5	

## 2025 授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目

・ 一般科目

1/4ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	操縦科 4年制コース	担当	森 一郎 (HAA)	開講時期	2年次 通年
科目名	航法Ⅱ	授業 方法	講義・演習・実習	教育時間	60
教科書	PRIVATE PILOT 「Jeppesen」				
参考書	航法計算盤、プロッター、区分航空図、飛行機操縦教本、 TAKE OFF(安全飛行への招待)				

<b>教 育 の 内 容</b>				
授業概要	FAA自家用操縦士の学科試験合格及び地上で習得したことを実飛行に反映できるようにする。			
実務経験	航空機事業の実務を活かして、安全・確実・迅速な飛行方法・要領を理解させる。			
授業の進め方	機長としての実運航要領を実施させる。			
到達目標	1. 学科試験及び実地試験の合格を目指しFAA自家用操縦士のライセンスを取得する			
学業成績の 評価方法	期末得点 80%	実技点 -	評点 20%	評価点 100%

<b>授 業 計 画</b>				(1単位時間=50分)
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	空中航法	1		
2	諸元解説	1		
3	航空図	1		
4	チャートプロットイング	3		
5	風力三角形	6		
6	航法計算盤	3		
7	磁気羅針儀	3		
8	高度計	3		
9	速度計	1		
10	無線航法	2		
11	飛行計画	12		
12	地文航法	6		
13	行動半径と等時点	3		
14	学科・実地試験対策	15		

学科	操縦科4年制コース	学年	2年
科目	航法Ⅱ	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
空中航法	a 空中航法 b 航法の分類	4月	1	
諸元解説	a 地球の形と大きさ b 地球に関する用語 c 方位と距離 d 時	4月	1	
航空図	a 地図の特徴 b 航空図の要件 c メルカトル航空図 d ランベルト航空図	4月	1	
ロチャイトング	a プロッター b ランベルト図のプロットイング c メルカトル図とランベルト図	4月	3	
風力三角形	a 飛行中の風の影響 b 飛行中の風力三角形 c 計画の風力三角形 d 飛行中の風力三角形の作図法 e 計画の風力三角形の作図法 f 作図板の概要 g 飛行中の風力三角形の作図板解法 h 計画の風力三角形の作図板解法	5月	6	
航法計算盤	a 乗除算計算 b 航法諸元の算出 c 単位の換算 d 三角関数応用	6月	3	
磁気羅針儀	a 地磁気 b 磁気羅針儀の構造 c 偏差と自差 d 時差の原因 e 動的誤差 f 定針儀 g ジャイロシンコンパス	6月	3	

学科	操縦科4年制コース	学年	2年
科目	航法Ⅱ	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
高度計	a 高度の種類 b 標準大気 c 気圧高度計 d 高度計の規正 e 高度計の誤差 f 真高度の求め方 g 気圧高度の求め方 h 密度高度の求め方	6月	3	
速度計	a 対気速度計 b 真対気速度の求め方 c 速度計の速度	7月	1	
無線航法	a NDB(ADF) b VOR c DME d TACANとVORTAC e 無線航法と位置の線 f タイムディスタンスチェック	7月	2	
飛行計画	a 飛行計画の準備 b 飛行計画の作成(飛行ルートの策定))	7月～9月	12	
地文航法	a 地形地物と航空図 b 航空図判読 c 地文航法の準備 d 地文航法における機位決定法 e 地文航法の実施要領 f 偏位角に関する公式 g 地文航法実施上の留意事項 h 地文航法と最新の航法 I 管制圏等の回避 j 実施上の留意事項	10月	6	
半径と等時点	a 行動半径 b 等時点	10月 ～11月	3	

学科	操縦科4年制コース	学年	2年
科目	航法Ⅱ	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
学科試験対策 実地	a 機長の出発前の確認事項 b 有視界方式による航法ログの作成(飛行ルートの策定) c FAA自家用操縦士としての総合的な判断	11月～3月	15	